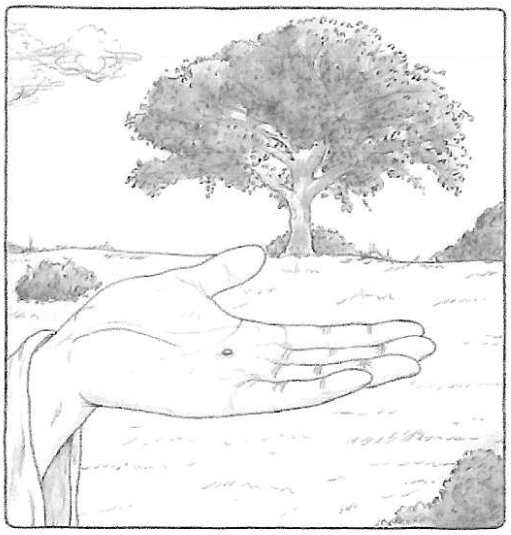
２０２３・１２・３　　黄金井尚美　主任牧師

＜生長する神の国＞

マルコ４：２６～３４



【人としてこの地に来られた御子イエスキリスト】
いまだかつて神を見たものはいない。父のふところにおられる
ひとり子の神が、神を説き明かされたのである。
ヨハネ１：１８
キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられ
ないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり
人間と同じようになられました。人としての性質をもって現れ
ピリピ２：６、７

◆イエス様は「時は満ち、神の国は近づいた」と
言われて公の働きが開始された。
ガリラヤ地方の田舎町から始まった「種まき」。
小さく始まったけれど、この後、全世界を飲み込む勢いで大きく拡大し
成長し続け、今もそれが続いている。

◆農夫は手をかけて収穫をするまで育てるが、まかれた種の生長事態はどうする
こともできない。人手によらない。
人手によらない・・・「それ自体で」「何の助けも借りずに」という意味。
地はひとりでに実をならせ（2017 年版）
ギリシア語で αὐτόματος・automatos
英語の「オートマチック automatic」の語源

◆イエス様が宣言された「神の国」が今も拡大し続けている。しかしそれは
「人手によらない」。神御自身の御業によって、神の御力によって前進する。

そして収穫の時が来る。終わりの日が必ずやって来る！
実が熟すると、人はすぐにかまを入れます。収穫の時が来たからです。【29 節】

かまを入れよ。刈り入れの時は熟した。来て、踏め。酒ぶねは満ち、石がめはあふれている。
彼らの悪がひどいからだ。さばきの谷には、群集また群集。主の日がさばきの谷に近づくからだ。
太陽も月も暗くなり、星もその光を失う。　ヨエル３：１３～１５

今はまさに終わりの時代？！

弟子達が、世の終わりにはどんな前兆があるかイエス様に尋ねた。そして答えられた。

「人に惑わされないように気をつけなさい。わたしの名を名のる者が大ぜい現れ、『私こそキリストだ』と言って、多くの人を惑わすでしょう。 また、戦争のことや、戦争のうわさを聞くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こることです。しかし、終わりが来たのではありません。
民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。しかし、そのようなことはみな、生みの苦しみの始めなのです。　　マタイ２４：４～８

続けていわれた。

そのときは、人々が大ぜいつまづき、互いに裏切り、憎み合います。不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくなります。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。この御国の福音は全世界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。 ２４：１２～１４

＊それから･･･原語は καὶ「そして・そうしながら」

◆世の終わりに向かって厳しい状況が加速し、宣教は人の目には困難に見える。
しかし、そのような中にあっても宣教は力強く世界に広がっていく。

◆イエス様が「神の国は近づいた」と宣教を始めた日以来、今日まで、からしだねほどであった神の国は、世界中に枝を張って拡大し続けている。

「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

「私たちとともにいる」のは、人格的な交わりのため。
人格的交わりとは、神の思いを知り、自分の思いを告白する。交流。
イエス様との人格的交わりがあって、人はイエスキリストの弟子となっていく。
人格的交わりで欠かせないのは「デボーション」！